

一番茶収穫始まる

天候に恵まれ生育良好

種子屋久管内で3月24日、
平年より5日早く一番茶の収
穫が始まりました。

種子屋久は、温暖な気候を
生かした日本一早い走り新茶
の産地です。

かごしまブランドに指定さ
れている「かごしま茶」とし
て出荷されており、さわやか
な香りと旨味に富んでいて、
入れると緑色が濃く、深みが
あり美しいのが特徴です。
今期の茶は、霜や強風によ



3月22日萌芽調査



る塩害の被害は少なく、生育
は良好。平年並みの収穫が見
込まれています。

収穫は、3月下旬から8月
上旬まで4期に分けて行われ
(一番茶は4月下旬まで)、収
穫後は荒茶に加工し、鹿児島
県・静岡県の市場に出荷され
る予定です。

中種子町茶業振興会会長の
山浦重夫さんは「昨年は霜の
被害で高品質の茶葉が少な
かったが、今年は大きな被害
もなく、高品質、高収量に期
待している」と話しました。

お茶の魅力を次世代に

お茶出張授業

種子島茶業研究会は2月19
日、西之表市の榕城小学校で
お茶の出張授業を行いました。
種子島の児童向けに毎年
開催し、今年は同校で13校目。
児童にお茶の理解を深めても
らうことが目的です。

授業には、種子島茶業研究
会員の農家やJA職員ら11人
が出席し、同校の5年生81人
に県産のお茶の歴史や生産状
況、健康作用について説明し
ました。



研究会会長の山浦拓己さん
は「飲む習慣が身に付けば、
自然と次世代まで受け継がれ
る。継続的に取り組み、お茶
の魅力伝えていきたい」と
話しました。

会員は、お茶の入れ方も実
演。児童らも体験し、自分で
入れたお茶の味を楽しみまし
た。

